

## 囲碁にまつわる言葉 【盤石】

私はかつて八王子囲碁連盟(八碁連)の会長を三期務めました。コロナ禍のためにいろいろな大会が開くことができず、市内にある10の同好会が市民センターなどで定例会を開いたり、閉じたりといった有様でした。幸か不幸かZoomというアプリを使いNet上での対局や研修会も盛んになりました。

八碁連は平成元年に結成されます。「八王子の碁を楽しむ老人連合」といい、略称は碁老連といわれていました。市内の8つの「寿囲碁同好会」で結成されました。碁老連の趣旨は「碁を楽しむための機会と場所を確保する」とあり、さらに「碁を通じてより良き福祉社会の建設に貢献する」という高邁な精神も掲げていました。

八碁連の歴代の会長は皆さん高段者でした。会長というのは暗黙の了解で高段者が会長を務めるという慣行ができていたようです。しかし、私は例外でありました。四段という低段者だったからです。なぜ会長になったかです。2018年、私は第20代の会長吉澤實八段の推薦で副会長になりました。当時、副会長は次の会長になるという慣行がありました。それまで八碁連の会長は規約によって1年任期でした。吉澤会長らは、会長職が1年というのは対外的にも対内的にも短すぎるとして、総会において3年任期とすることになりました。そして私が第21代の会長に指名されたのが2019年4月です。規約の改正により、私の会長職の任期は2022年3月まででした。残念なことに吉澤實氏は2022年11月にお亡くなりになりました。

### ----- 【盤石】 -----

広辞苑(第二版)によれば、盤石とは「大きな岩、いわお、極めて堅固なこと、安定して動かないこと、全く動じないこととあります。稀に「バンセキ」ともいわれるとあります。もともと【盤石】は「不動明王が坐して



いる土台」で、土台は金剛石でできているのです。囲碁は、碁石、碁盤、碁笥から成ります。【盤石】とは切っても切れないご縁があります。碁では「盤石の構え」を相手が攻めようとしてもびくともしない、という状況をさします。「盤石の基礎を築く」「盤石の体制で挑む」などのように、きわめて堅固な状態を表しています。

【磐石】も【盤石】と同じような意味です。【磐】は大きな船の形をした「たらい」という意味でもあります。「大きい石」とか「崖の下の石」とも言われますが、常用外のためか公には使われなようです。ちなみに【盤石】にあたる英単語は「robust」とか「solid」があたります。

日本棋院の対局室「幽玄の間」に作家川端康成が「深奥幽玄」書いた掛け軸があるそうです。掛け軸は幾多の名局を見守っています。盤石の同類語は、鉄壁、万全、対義語は脆弱、不安定、貧弱でしょうか。総選挙を間近になると、各党の間ではこうした用語が盛んに使われます。

(2023年6月1日 大和田囲碁同好会 成田 滋)